



市民の森 植樹事業

手入れが行き届かず「荒れた森林が増えている」

日本は国土のおよそ7割が森林で、世界でも緑が豊かな国です。しかし現在手入れをされずに放置され続けてしまったことでたくさんの森林が荒れてしまいました。

荒れた森林は太陽の光が地面に届かず、地面に草が生えず、栄養が行き届かない木はひょろひょろと細くなり、生き物が住みにくい森林となります。

固くなった土は大雨の時に洪水や土砂崩れを引き起こすなど、多くの問題を生み出してしまいます。



元気な森林



荒れてしまった森林

育てて、伐って、使う「森林の循環」

人がつくった森林は、適切に管理して手入れをしなくてはなりません。成長した木を伐る、伐った木をさまざまなところで適切に使う、使った分の木を新しく植えて育てる。そして成長した木を伐ってまた活用する・・・元気な森林をつくり、守り続けるにはこのような「森林の循環」をつくる事が大切です。こうしたサイクルを繰り返すことで、森林はいつまでも元気でいられるのです。

市民の森「植樹事業」

津軽金山焼では大切な資源を守り活用するため、2011年から2015年の5年間で1500本の青森ヒバを植樹しました

趣旨：地球環境の悪化が懸念される中で、植林活動がまだまだ不十分の中、森づくりを通じて子供たちへ自然を大切にする心を伝える事は、金山焼の責務であると感じています。植樹するのは伐採が進み、青森県内でも貴重な「青森ひば」です。この植樹は長い年月を要しますが、市民の森として次世代へ引き継ぎたいというのがこの事業の目的です。



小さいお子さん連れのご家族や、近くの保育園や高校生なども積極的に参加してくれました。